

# 2015年3月期 第2四半期 連結決算説明資料

2014年 11月13日

**株式会社 西島製作所**

証券コード:6363

公式サイト : [www.torishima.co.jp](http://www.torishima.co.jp)

- 売上、営業利益、経常利益、当期利益とも、概ね計画通り。
- 受注は、前年同期比30%弱減少。

		前年同期比	計画比
● 受注高	— 214億円	(▲26.5%)	( — )
● 売上高	— 179億円	( +0.7% )	( +5.6% )
● 営業利益	— ▲10億円	( ▲1億円 )	( ±0億円 )
● 経常利益	— ▲8億円	( ▲1億円 )	( +2億円 )
● 当期利益	— ▲6億円	( ▲2億円 )	( ±0億円 )

# 2015年3月期第2四半期決算実績

- ・概ね計画通り。
- ・ただし、受注については、質と量のコントロールを重視した戦略受注の影響もあり減少。

## ① 連結ベース

単位：億円

	2014年3月期 上期実績	2015年3月期 上期実績	増減
受注高	290	214	▲76
売上高	178	179	+1
売上総利益 (売上総利益率)	34 (18.9%)	32 (17.7%)	▲2 (▲1.2%)
販売管理費	▲43	▲42	+1
営業利益 (営業利益率)	▲9 (▲5.1%)	▲10 (▲5.8%)	▲1 (▲0.7%)
営業外損益	2	2	±0
経常利益	▲7	▲8	▲1
特別損益	0	0	±0
当期純利益	▲4	▲6	▲2

2015年3月期 上期計画	計画比
—	—
170	+9
—	—
—	—
▲10 (▲5.9%)	±0 (+0.1%)
—	—
▲10	+2
—	—
▲6	±0

平均為替レート(\$)	98.9円	103.0円
-------------	-------	--------

- ・前ページの連結ベースの数値を単体と子会社に分けたもの。
- ・前年度同様、単体赤字、子会社黒字の状況は変わらず。
- ・売上総利益率の悪化要因は、主に引当金(製品保証及び工事損失引当金 以下同様)の前年度取崩し、今年度繰入れによる。詳細については次ページ参照。
- ・サービス子会社が好調だったこともあり、子会社利益については、昨年度を上回る実績を上げている。

## ② 単体

単位:億円

	2014年3月期 上期実績	2015年3月期 上期実績	増減
売上高	130	136	+6
売上総利益 (売上総利益率)	17 (12.8%)	13 (9.4%)	▲4 (▲3.4%)
販売管理費	▲32	▲31	+1
営業利益 (営業利益率)	▲15 (▲11.7%)	▲18 (▲13.3%)	▲3 (▲1.6%)

## ③ 子会社

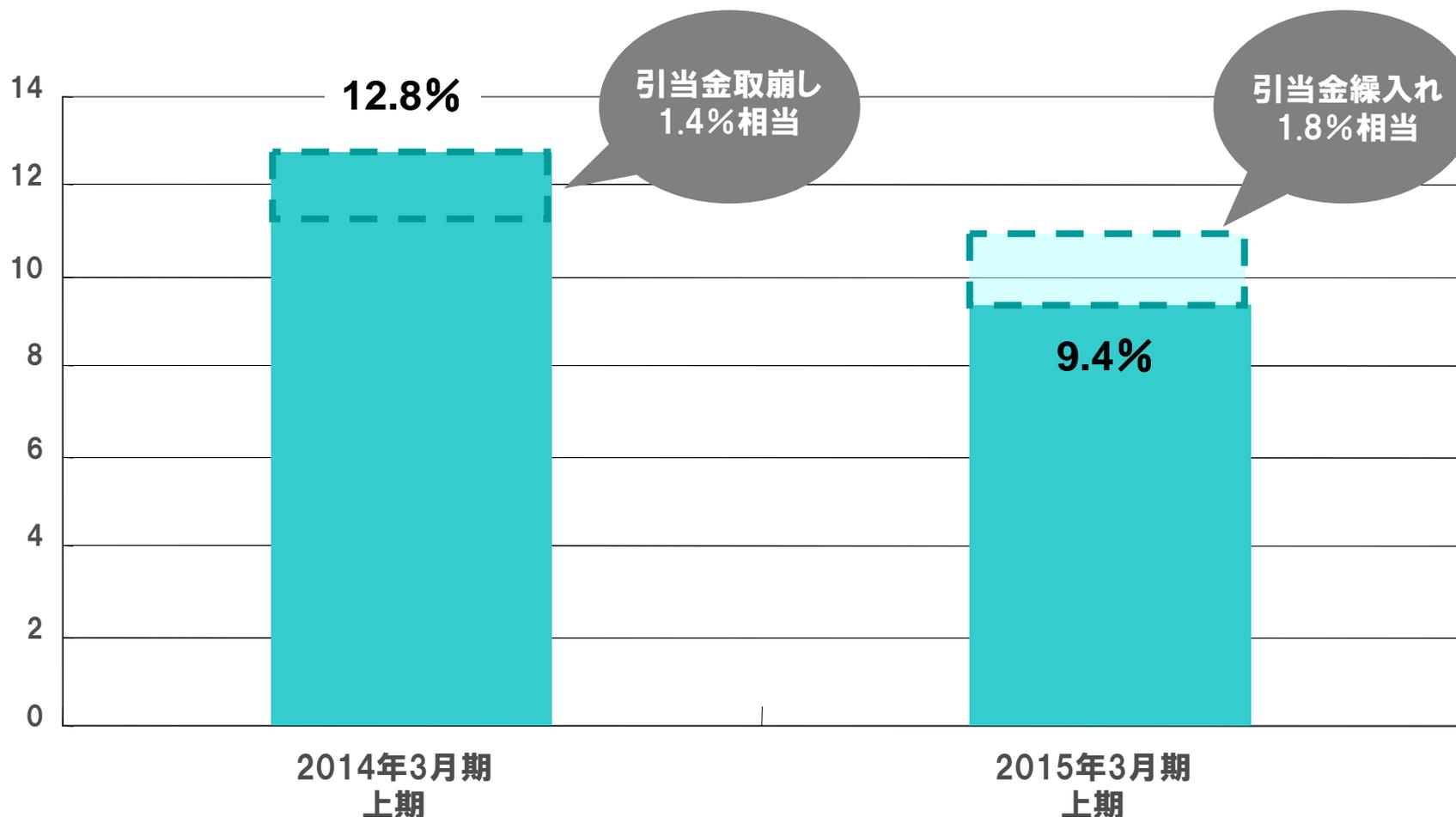
単位:億円

	2014年3月期 上期実績	2015年3月期 上期実績	増減
	48	43	▲5
	17 (35.4%)	19 (44.0%)	+2 (+8.6%)
	▲11	▲11	±0
	6 (13.0%)	8 (18.0%)	+2 (+5.0%)

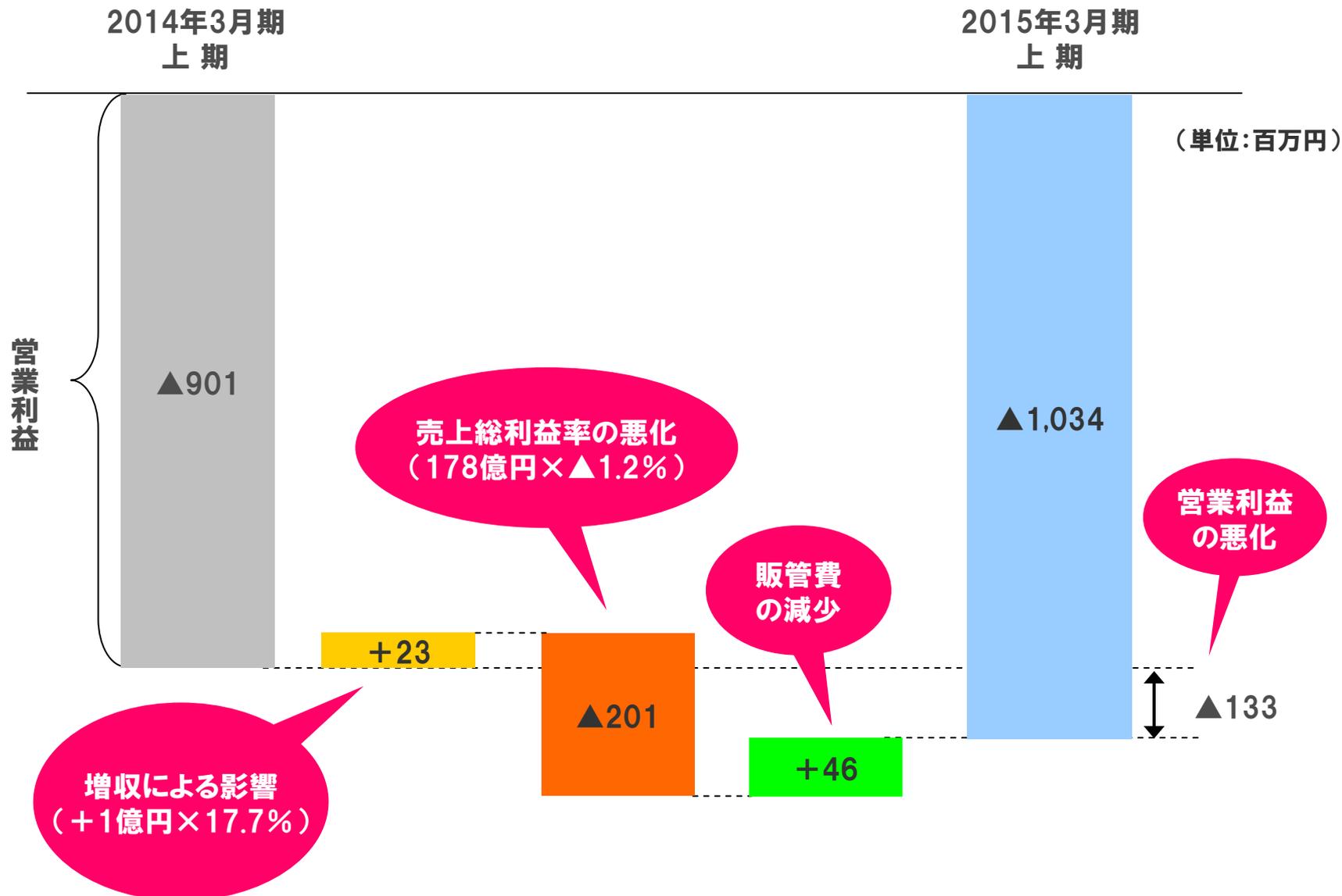
注) 子会社の数値(③)は、連結決算数値(①)から単体決算数値(②)を差し引いて算出しています。

# 上期売上総利益率(単体)の分析

- 上期の売上総利益率は、前年度引当金取崩し180百万円(1.4%)に対し、今年度は引当金繰入れ240百万円(1.8%)を実施し、合わせて3.2%の悪化。
- 従い、全体では、前年度比3.4%悪化しているが、引当金効果を除くとほぼ前年度並み。

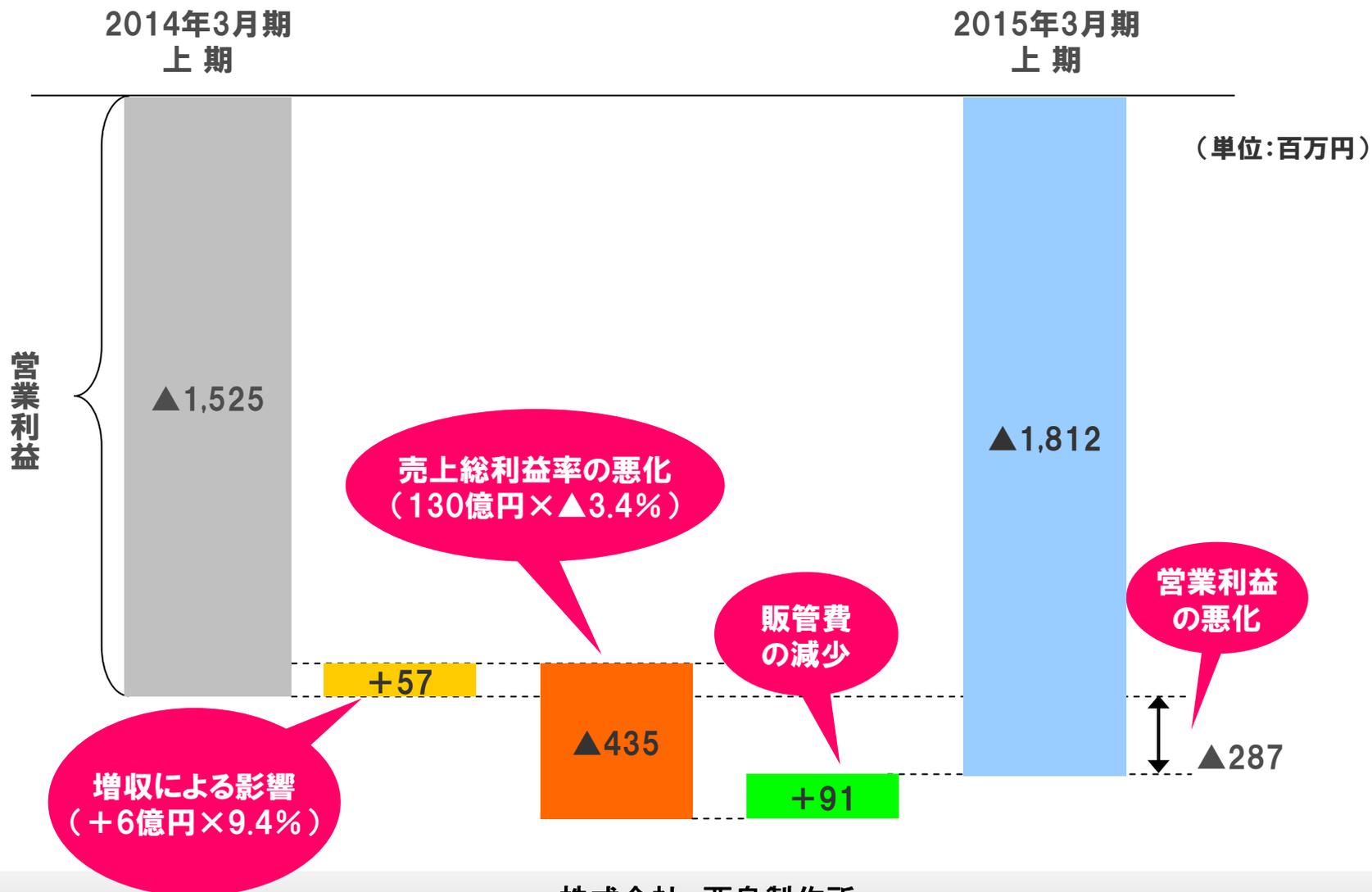


# 連結営業利益 増減要因



# 単体営業利益 増減要因

・売上総利益率3.4%悪化。詳細はP5の通り。



## モノづくりプロセスの改革

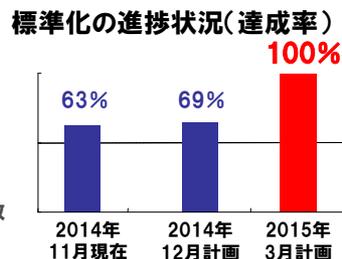
### 7:3ルール | 標準化の推進

・受注急増  
 ・TISプロジェクトの混乱  
 ⇒従来以上に多忙により、標準化作業に遅れ

戦略受注の徹底

- 標準化に人材投入
- 今期末に標準化 100%達成見込み

※割合は、2013年度の各機種受注台数を同年度の総受注台数で割って算出



### TISプロジェクト | プラットフォームの構築

2013年6月稼動  
 導入時システム不具合→プログラム修正が多発  
 ⇒費用発生/工程混乱

不具合対応継続 / ルール明確化

- システム不具合は概ね解消⇒費用も減少
- 活用拡大化へ

問題発生

対策

現状

一気通貫のモノづくりシステム



単体の業績回復が今年度の通期見通しに対してはキーとなります。

以下、P9～14において、単体の決算状況及び見通しについて説明します。

尚、下記は前回通期決算発表時(5月14日)に採算改善の見通しとして示したシナリオです。

## 記

### 単体決算の採算改善見通し

(2014年3月期通期連結決算説明資料より)

(1) 売上高見通し(増収) → 20～30億円 UP

(2) 売上総利益率の改善 → 3～4% UP

(3) 販管費の減少 → 約3億円 DOWN

(1) + (2) + (3) で、18～20億円の採算改善を見込む

# (1) 売上高見通し(増収)(単体)

見通し | 売上高20~30億円UP見込みを、前年度並み(360億円)に修正

理由

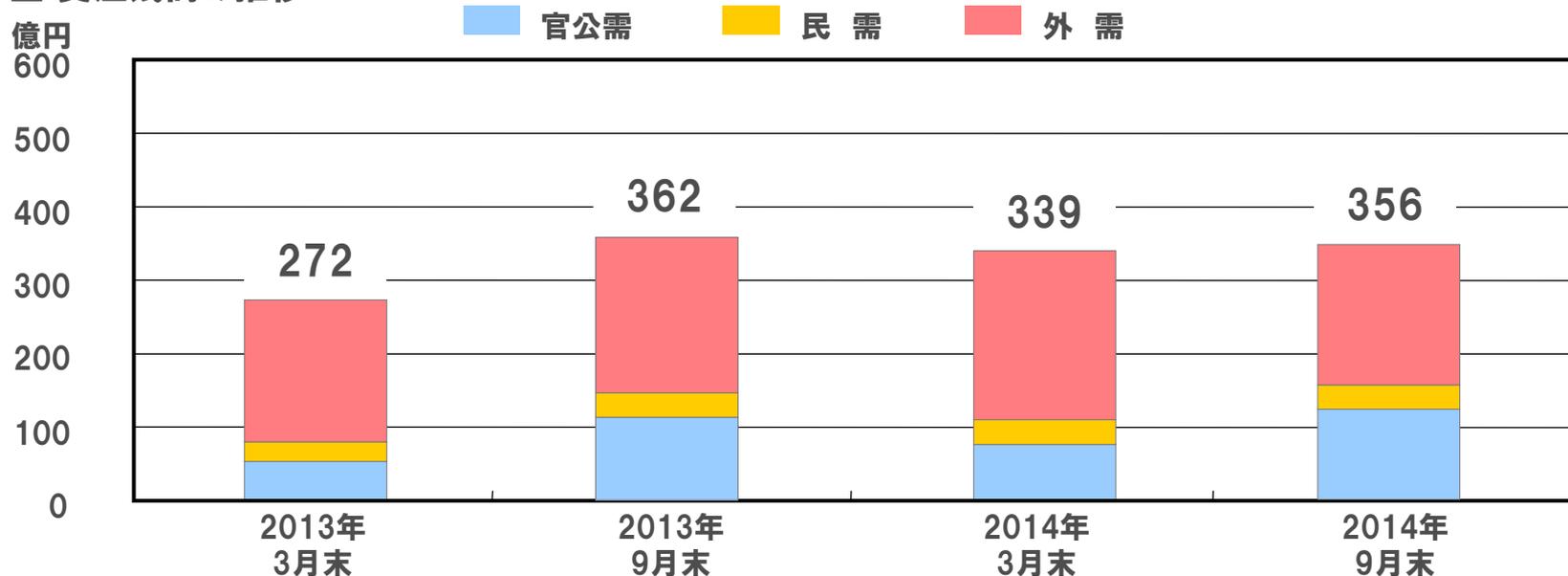
① 戦略受注により、受注高が前年度比大幅減。

(上期受注高は連結ベースで前年度比▲76億円)

- ・TIS、7:3ルールを導入を優先した「量のコントロール」
- ・利益率を重視した「質の重視」

② 受注残は、前年度と同水準なので、前期並みの売上は可能。

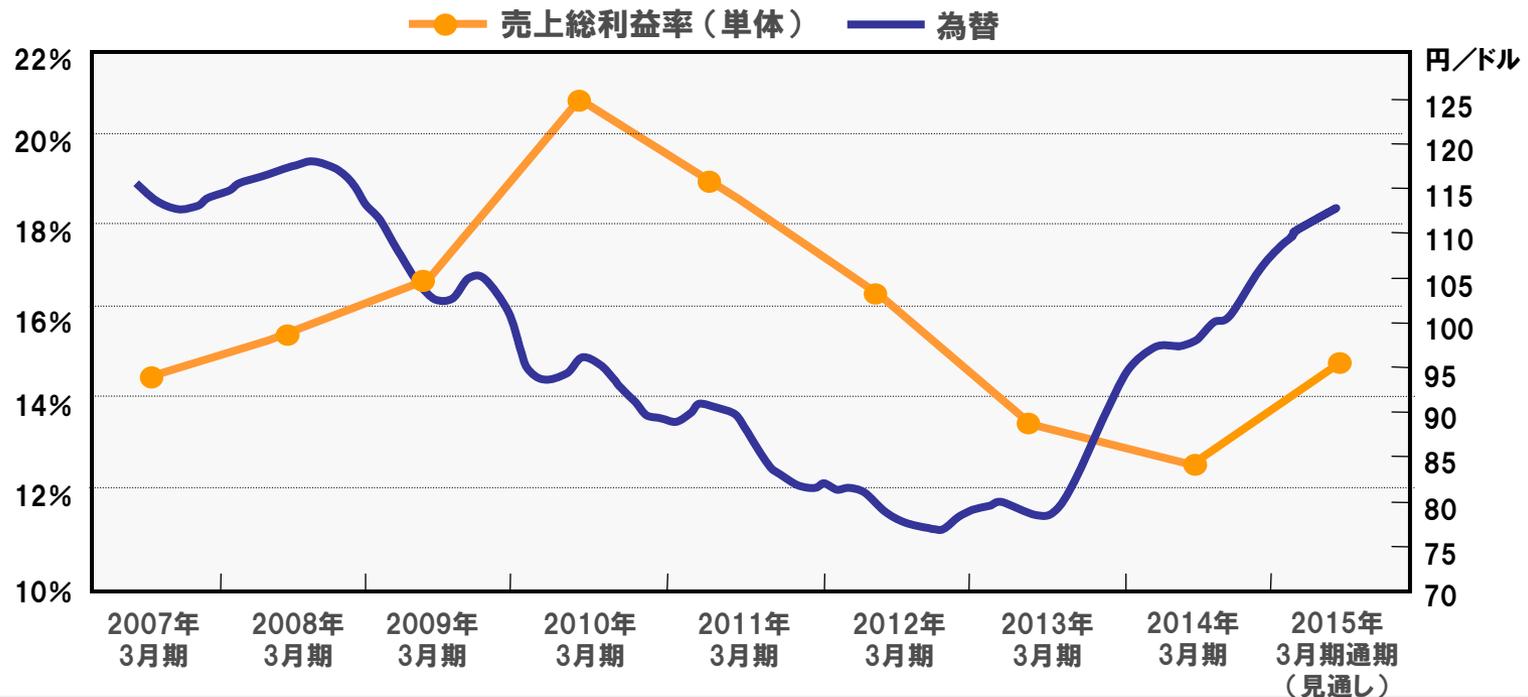
■ 受注残高の推移



## (2) 売上総利益率(単体)の改善

見通し | 3~4%UP見込みを2~3%UPに修正

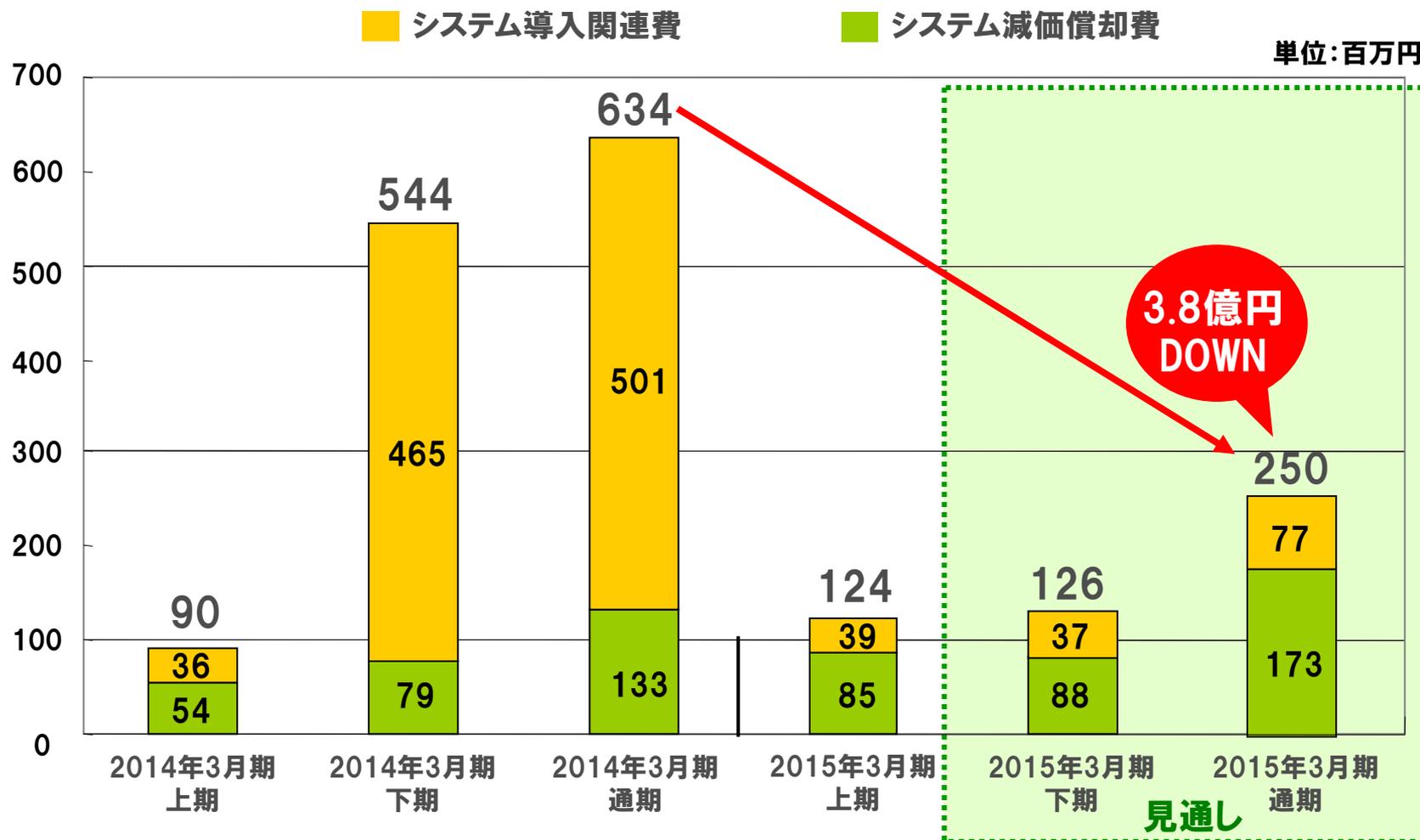
- 理由 |
- ・円安効果および利益率重視の受注方針により粗利率の改善は見られる。
  - ・ただし、円安による輸入材料コスト増もあり当初計画を若干下回る。



### (3) -1 販管費の減少（単体）

#### 【システム関連費用】

システム導入当初は混乱もあり、費用がかさんだが、今年度は問題も解消へ向かい、費用が減少。



### (3) -2 販管費の減少（単体）

見通し | 約3億円DOWNの見込みを、約5億円DOWNに修正

- 理由 |
- ・システム関連費用の減少。
  - ・その他販管費の減少。

単位：億円

	上期実績	下期見通し	通期見通し
システム（TIS）導入関連費	0.3	▲4.1	▲3.8
その他販管費	▲1.2	±0	▲1.2
<b>合計</b>	<b>▲0.9</b>	<b>▲4.1</b>	<b>▲5.0</b>

## 【単体決算の採算改善見通し】

前回通期決算発表時は、採算改善額計18～20億円を見通していたが、現状では計14億円にとどまる見通し。詳細は以下の通り。

	期初見通し	採算改善額	現状見通し	採算改善額
(1) 売上高見通し(増収)	20～30億円UP	3億円	—	—
(2) 売上総利益率の改善	3～4%UP	12～14億円	2～3%UP	9億円
(3) 販管費の減少	約3億円DOWN	3億円	5億円DOWN	5億円
		計18～20億円		計14億円

### ① 単体

単位:億円

	2014年 3月期 通期実績	2015年3月期		
		上期実績	下期見通し	通期見通し
売上高	355	136	224	360
売上総利益 (売上総利益率)	43 (12.2%)	13 (9.4%)	39 (17.4%)	52 (14.4%)
販売管理費	▲67	▲31	▲31	▲62
営業利益 (営業利益率)	▲24 (▲6.7%)	▲18 (▲13.3%)	8 (3.6%)	▲10※ (▲2.8%)

### ② 子会社

単位:億円

	2014年 3月期 通期実績	2015年3月期		
		上期実績	下期見通し	通期見通し
	105	43	57	100
	40 (38.9%)	19 (44.0%)	19 (33.5%)	38 (38.0%)
	▲25	▲11	▲12	▲23
	15 (13.9%)	8 (18.0%)	7 (12.7%)	15 (15.0%)

※ 2014年3月期通期営業利益▲24億円+現状採算改善額見通し14億円

# 2015年3月期通期業績見通し

売上高については、単体の売上予想を引き下げたことにより、連結についても公表値を見直し、通期見通しを460億円とした。

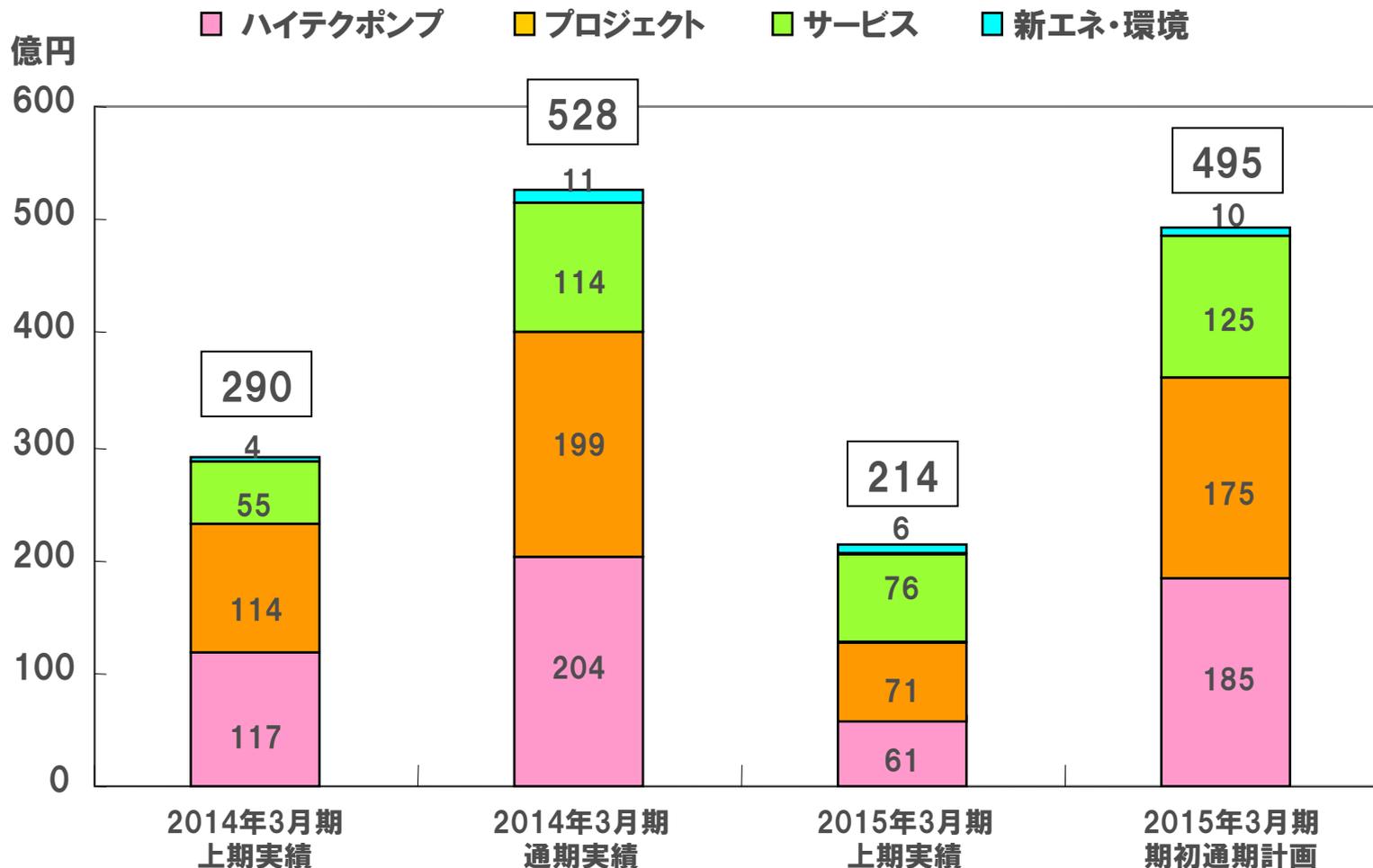
## ③ 連結ベース

単位：億円

	2014年3月期 通期実績	2015年3月期		
		上期実績	下期見通し	通期見通し
受注高	528	214	精査中	精査中
売上高	460	179	281	<b>460</b>
売上総利益 (売上総利益率)	83 (18.1%)	32 (17.7%)	58 (20.7%)	90 (19.6%)
販管費	▲92	▲42	▲43	▲85
営業利益 (営業利益率)	▲9 (▲2.1%)	▲10 (▲5.8%)	15 (5.3%)	5 (1.1%)
営業外損益	3	2	0	2
経常利益	▲6	▲8	15	7
特別損益	15	0	0	0
当期純利益	4	▲6	11	5
平均為替レート(\$)		103.0円	110.0円(想定)	

# 事業領域別 受注（連結）

- ・ハイテクポンプは、戦略受注の影響もあり減少。
- ・サービスについては、これまでの実績及びサービス拠点の拡充、営業活動強化により、受注は順調に伸びている。



# 事業トピックス

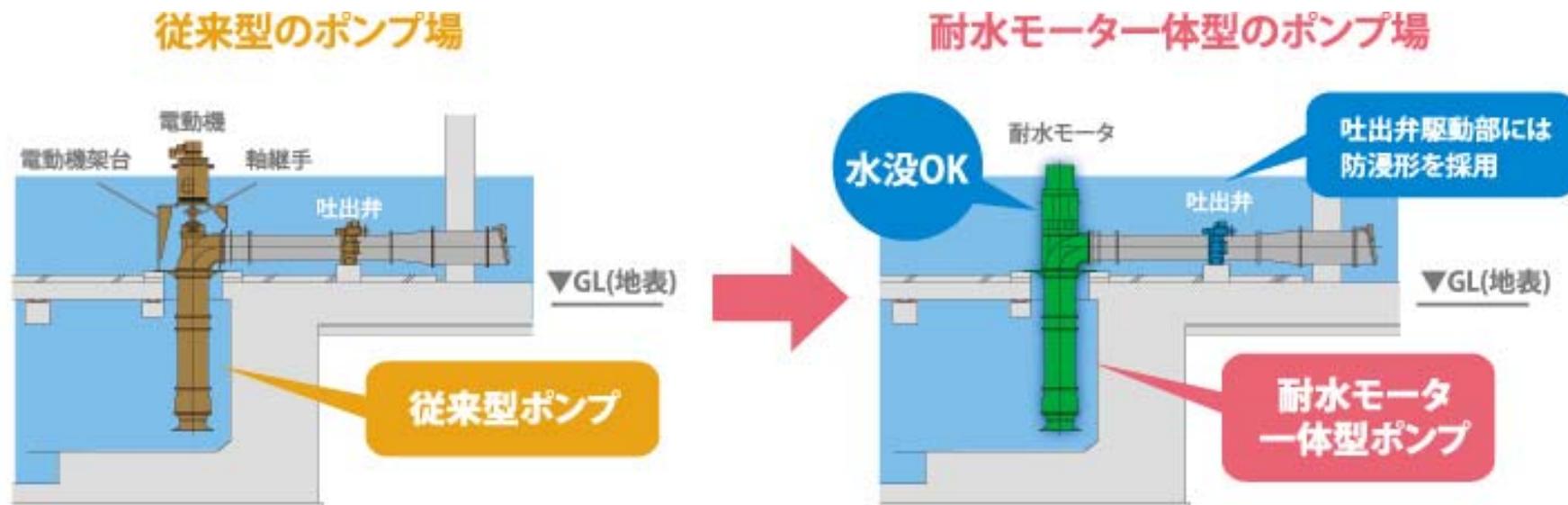
- 雨水・排水ポンプの新技术提案
- サービス事業拡大
- エコポンプ拡販

# ● 雨水・排水ポンプの新技術提案

全国で相次ぐ、集中豪雨・洪水対策に、トリシマの技術で貢献。

## ① 耐水モーター一体型ポンプ

- ✓ ポンプ場が浸水しても、ポンプ稼働が可能
- ✓ 高耐震性
- ✓ 据付費用が多床式に比べ安価



高い性能と信頼性が評価され、全国各地から受注。



- ① 堺市下水道  
石津ポンプ場(製作中)2台
- ② 吹田市  
南吹田処理場他5ヶ所(納入済)8台
- ③ 日本下水道事業団  
福岡県 宗像処理場(制作中)1台
- ④ 佐賀県唐津市  
唐津終末処理場(施工中)3台

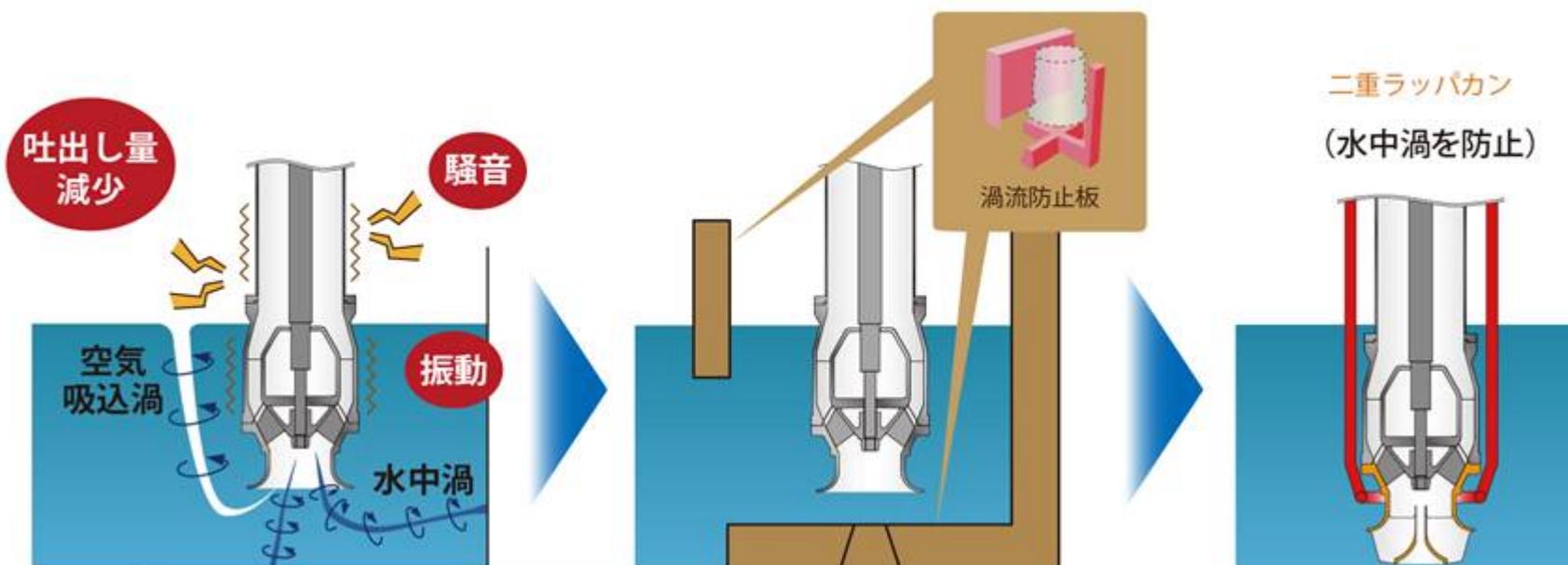
NHKの情報番組「ニューステラス関西」の  
「技ここにある！ 関西ものづくり」  
でも取り上げられました。  
(2014年9月19日放映)

全国で相次ぐ、集中豪雨・洪水対策にトリシマの技術で貢献。

## ② ポンプ本体による渦の抑制技術(二重ラッパカンと渦対策リング)



- ✓ ポンプ吸込み水槽への土木工事費が不要
- ✓ 施工期間が短縮、施工費が安価
- ✓ 施工の安全性が高い



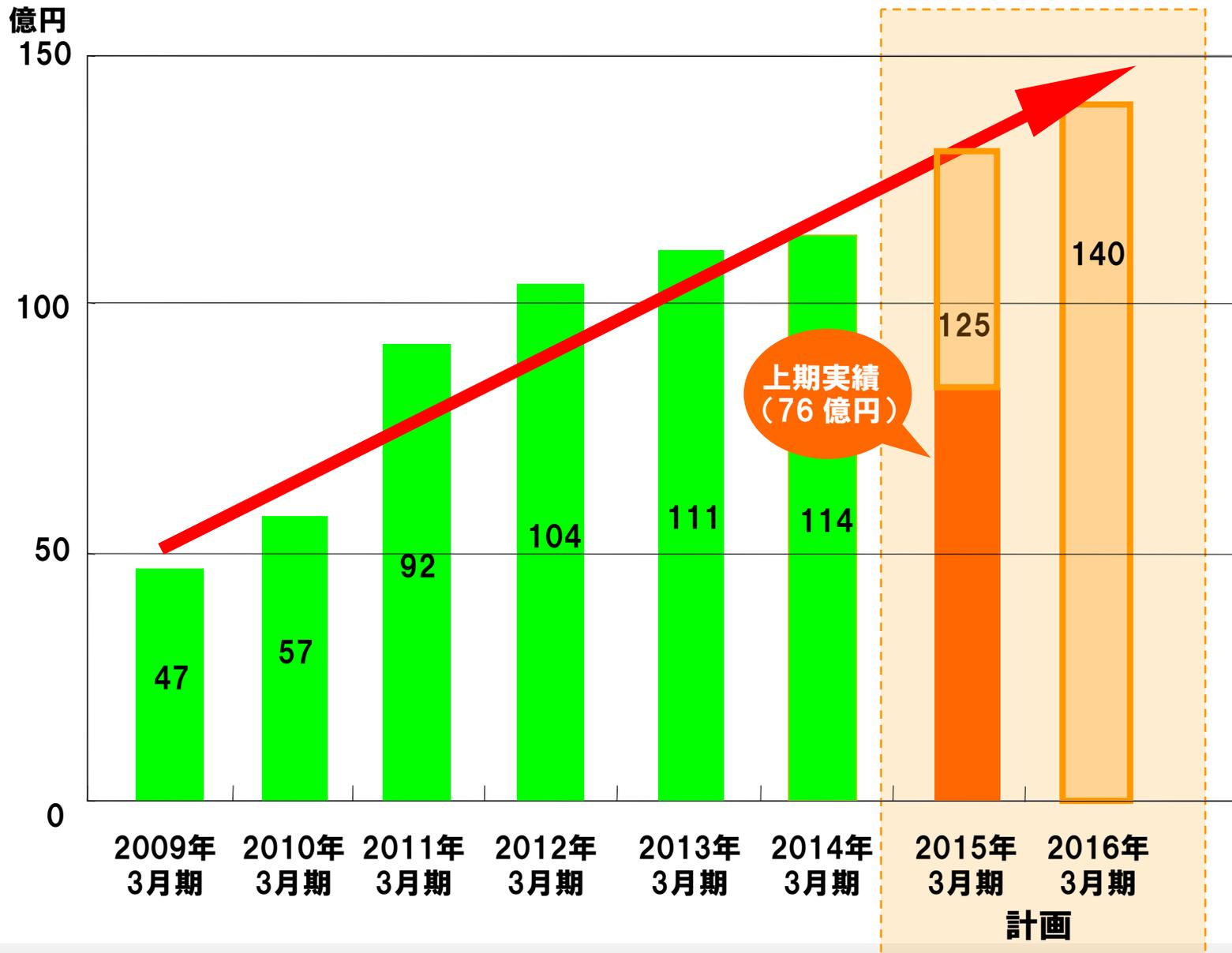


- ① 東大阪市 岸田堂ポンプ場(納入済)2台
- ② 名古屋市 篠原ポンプ場(施工中)1台
- ③ 佐世保重工 第3ポンプ所(施工中)1台
- ④ 名古屋市 宝神ポンプ場(施工中)1台



# ● サービス事業拡大

# サービス事業受注の実績推移と見込み



# トリシマサービスネットワークの本格稼働



Torishima Service Solutions FZCO  
(U.A.E.・ドバイ)



Torishima Tianjin Ltd.  
(中国・天津)



Fluid Equipment Development Company  
(米国・ミシガン州モンロー)

Torishima Service Solutions Europe  
(英国・グラスゴー)



Torishima Pumps India Private Ltd.  
(インド・バンガロール)

本社 サービス本部  
(大阪・高槻)

Torishima Service Solutions Asia  
(シンガポール)



P.T. Torishima Guna Engineering  
(インドネシア・西ジャワ州ブカシ)

# ① 中東サービス工場(TSS)での受注拡大

**REDU**<sup>®</sup>  
Re Engineering & Design Up

自社ポンプだけでなく、  
他社製ポンプの修理にも対応することで、  
積極的に受注を拡大。

他社製ポンプ



# 水力部品の交換で大幅に効率アップ



Before

既設ポンプ

キャビテーションによる  
振動やケーシングの割れに  
よりポンプの能力が低下...



プラントの稼働率低下...



After

水力部分をアップ  
グレードしたポンプ

REDUにより  
ポンプの能力が向上!



プラントの安定稼働に貢献!



## ②インド サービス工場、順調に受注を拡大

インド国内の発電所に、  
合計約 **300台** の **ボイラ循環ポンプ** を納入。



### ③ 香港 長期メンテナンスサービス大型受注

発注先:香港特別行政区政府Drainage Services Department

受注内容:下水処理場をはじめ、**220ヶ所のメンテナンス**

受注範囲:機械及び電気設備の点検、修理、オーバーホール、試験

契約期間:2014年1月～2017年1月の3年間





# ● エコポンプ拡販

エコポンプを導入してくださったお客様の事例を「エコポンプニュース」で紹介しています。

## ● イオンディライト株式会社様の事例

**ポンプdeエコ 西島製作所**

**TORISHIMA**  
*Eco Pump News*  
世界をリードするエコポンプ

August 2014 / Vol.51

全国各地で「エコポンプ」広がっています！

イオンディライト株式会社との共同で、  
全国大手総合スーパーの33店舗で「ポンプdeエコ」実施中！

**大手総合スーパーを運営するイオンリアル株式会社へエコポンプをそくそく納入！**

全国展開のスタートとなったのは、遡ること3年前、千葉県にあるイオン鎌倉店に納入した台のエコポンプからでした。イオングループでは2012年9月から「イオンのseeプロジェクト」と題し、「へらそう作戦」「つくろう作戦」「まほらう作戦」を展開しています。その中の「へらそう作戦」では、省エネ設備の積極的導入等を図り、2020年度までに店舗での使用エネルギーを50%削減するという目標を掲げています。その一環として、全国に数多くある省エネ機器の中から、イオン鎌倉店に納入したエコポンプの省エネ性の高さが認められ、全国のイオン店舗でエコポンプを展開することとなりました。現時点で全国のイオン33店舗に119台のエコポンプを納入（一部製作中）させていただいています（2014年7月末時点）。

**イオングループの環境・社会貢献活動**

イオングループの環境・社会貢献活動の歴史は長く、古くは1960年代にまで遡ります。1965年に開始

オカダヤ店舗の際に1900本の桜の木を市に寄贈したのを始めとし、今日に至るまで日本国内を始め世界各国で計18,311,352本の植樹が行われています（2014年2月28日現在）。また最近ではおなじみとなった買い物袋持参運動も熱に先駆けて1991年から実施されています。

省エネ対策としては、小売業界初の総量削減目標を掲げた2008年3月の「イオン環境化防止宣言」から2012年には、2020年までに使用するエネルギー量を2010年の半分にする「イオンのseeプロジェクト」を開始されています。

ディライトは、総合ファシリタマネジメント事業を軸とし、イオン店舗の運営を行うイオンリアルとの省エネ事業を全面的に担っています。これまでにLED化、空調のインバータ化、熱源機器及び輸送機器の高効率化などの省エネ施策を提案・実施されてきました。現在、ふと目をこらせば彼の中には様々な省エネ方法があります。その中でのようにしてトリスマのエコポンプに採用されたのが、

●イオン33店舗に119台のエコポンプを納入（一部製作中）

## ● 株式会社ブリヂストン様の事例

**ポンプdeエコ 西島製作所**

**TORISHIMA**  
*Eco Pump News*  
世界をリードするエコポンプ

November 2013 / Vol.44

インバータに頼らず、エコポンプで省エネ成功！  
年間消費電力23.4%削減！

～株式会社ブリヂストン下関工場での実施例～

**インバータかエコポンプか？**

「そうですか？もう見慣れちゃいましたね（笑）」と笑うその笑顔で迎えてくださったのは、設備・安全推進課の白川職員様と同僚様。もともとエコポンプの省エネとしてインバータの導入を検討されていたことですが、今回、それを取りやめてトリスマのエコポンプを採用していただきました。

「エコポンプでの省エネを考えたとき、はじめはインバータは4割にありませんでした」という同僚様と「普通、営業さんはい〜ことしか言わないし、本当にエコポンプで省エネできるのかなって、はじめは正直不安でした」という白川職員様。そんななか、どうして最終的にエコポンプに決めたのか。聞いてみよう。と、省エネ推進課などの説明資料に担当者があり、設備の仕様に合わせてポンプを設計してくれるのに魅力を感じました」とのお言葉をいただくことができました。

**インバータとモノを切り替える点で、23.4%の省エネ効果が出た！**

具体的にいうと、トリスマがまず行ったのは、インバータとエコポンプの省エネ効果を数値で比較検討すること。まず、インバータを導入した場合、通常は、全機種と重量の無駄を省くことができるので相応の省エネになります。しかし、この設備のポンプはもともと全機種にも重量にもほとんど無駄がなく、そのうえインバータを使うことで発生するロスを考慮すると、省エネ効果は1%もありませんでした。一般的に、最初の設計の段階では余裕を見て大きなポンプを入れているため、オーバースペックになっていることが多いのですが、逆に言えば、エコポンプを導入した工場では、適切な選定ができていたということです。

一方、トリスマのエコポンプは、水の流れがスムーズになるケーシングと3次元インペラにより、ポンプそのものが高効率設計になっていること、100%程度の経済効率モードを標準装備していることなどで省エネを図ります。これならインバータに頼ることなく、ポンプとモータだけで効率を改善できます。結果、年間の消費電力を23.4%も削減することができました。

# トップランナー制度に対応するTUモータ

世界基準の省エネ規制、「**トップランナー制度**」開始。

2015年4月より、**超高効率モータ (IE3) ※**の使用が義務付けられます。

トリシマのエコポンプは、2008年からいち早く、

**IE3相当のTUモータ (トリシマウルトラモータ) を標準装備**しています。



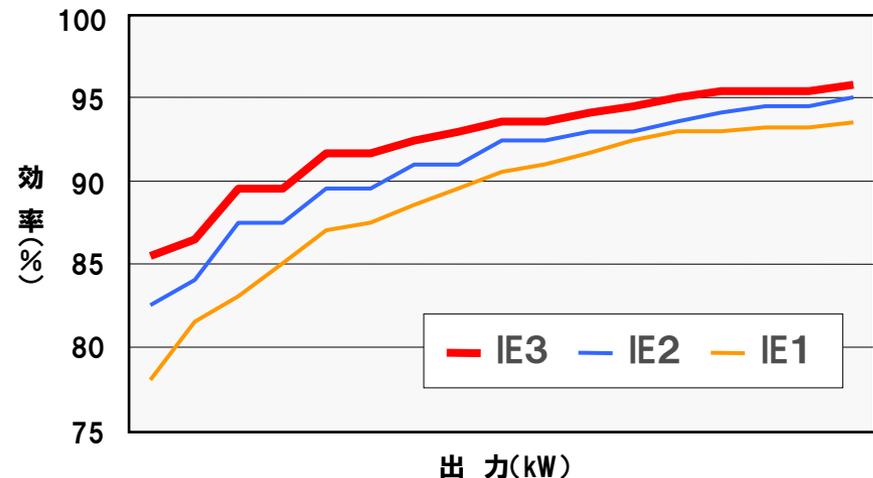
※ IEC(国際電気標準会議)では、モータ効率の基準値として、IE1(標準)、IE2(高効率)、IE3(超高効率)を規定しています。欧米ではすでにIE3の普及が進んでいますが、日本ではほぼ0%だったことなどから、今回の規制強化の流れとなりました。

## ■ IEC60034-30におけるクラス

	クラス
ウルトラ高効率モータ ※	IE3
高効率型モータ (JIS C 4212)	IE2
標準型モータ (JIS C 4210)	IE1

※50Hz-200Vまたは400V, 60Hz-220Vまたは440V時

## ■ 出力とモータ効率の関係 (60Hz時)



インドネシア – フィリピン –  
タイ – 台湾 – 韓国 – 英国

東南アジア各国の日系企業を中心に、  
「ポンプで省エネできる」ことを提案。  
エコポンプの販売を本格スタート。

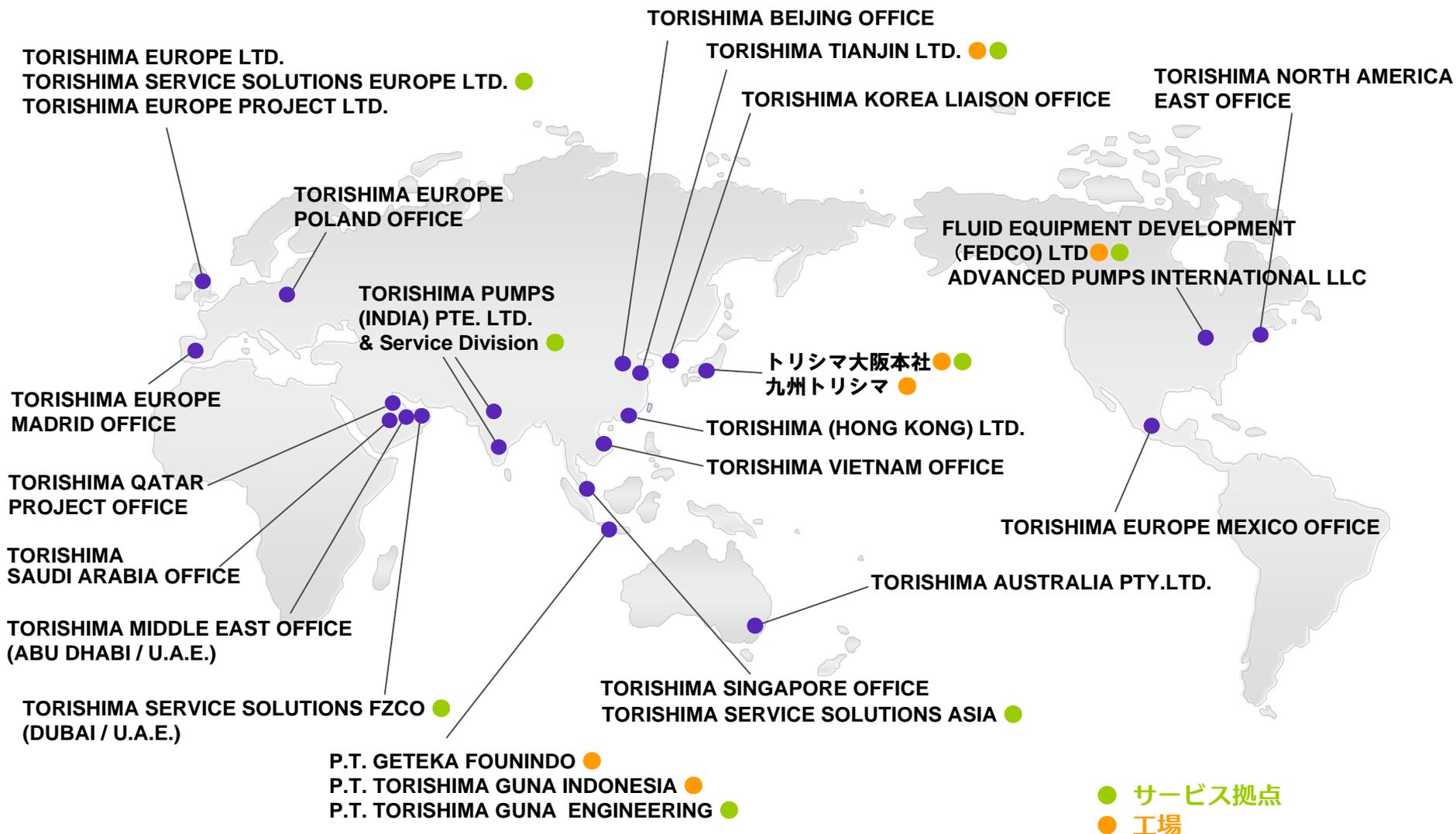


インドネシアでも、「ポンプde省エネ講習会」開催中。  
エコポンプ量産体制も来春開始。

エコポンプサイト英語版もオープン。  
世界へ向けて情報発信中。



# 海外ネットワーク (2014年11月現在)



本資料の業績などに関する将来の予想、見通しなどは現時点で入手可能な情報に基づき算出したものです。

したがって、実際の業績は今後の様々な要因によって、異なる結果となる可能性があることをご了承ください。

### 【お問い合わせ先】

株式会社 西島製作所 IR広報室  
Tel : 072-695-0551  
Email : torishima-ir@torishima.co.jp